

< 運営推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	池田ライフサポート&システム株式会社	事業所名	看護小規模多機能わかばイースト
所在地	(〒 015-0065) 由利本荘市荒町字真城 42-2		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

「①換気をする。②床に足をつけて座る。③トイレに座る。④あたたかい食事をする。⑤家庭浴に入る。⑥座って会話をする。⑦町内におでかけをする。⑧夢中になれることをする。⑨ケア会議をする。⑩ターミナルケアをする。」の10の基本ケアを大切に、「尊厳を護る。自立を支援する。在宅を支援する。」ということに力を入れています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2021 年 12 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	(14) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022 年 1 月 紙上開催	出席人数 (合計)	() 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input checked="" type="checkbox"/> 自事業所職員 (1) 人 <input type="checkbox"/> 市町村職員 () 人 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1) 人 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1) 人 <input type="checkbox"/> 利用者 () 人 <input type="checkbox"/> 利用者の家族 () 人 <input checked="" type="checkbox"/> 知見を有する者 (1) 人 <input type="checkbox"/> その他 () 人			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	事業所の理念やサービスの特性を理解し業務に活かせるような研修の工夫を行なう。面接機会を設け、職員育成のための目標設定で意欲的に取り組めるようにする。避難訓練など災害時の対応がスムーズにできるように訓練を充実させる。	理念や基本方針は掲示している。ご本人や家族の要望や想いを聞き取り、医療・看護・介護を安心して受けながら生活できるようサービスを提供している。 定期的に研修や委員会による勉強会が開催されている。 法人内外での研修に参加できるようであれば声掛けをし、希望があれば参加できるよう調整している。 お客様申し送り、看護ノートを活用し情報共有している。緊急を要する場合はメールにて発信している。	たん吸引研修など、前回よりは研修の機会が多かった。 停電時の対応等についてもっと深く訓練したい。 お客様のカンファレンスを月1回のペースで行ってはいるが、その月の新たな課題と対策を話し合うだけにとどまり、前回のカンファレンスで話し合った対策によって、どのように変化したか、または改善したかなどの話し合い迄の時間を生み出せずにいる。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	看護と介護での情報共有を密にし、アセスメントやモニタリングを充実させ、リスク管理にも反映させる。	適切な指示とスタッフ間の話し合いによって、お客様やご家族の考えに寄り添い、把握に努めている。	看護と介護での情報共有を密にし、アセスメントやモニタリングを充実させ、リスク管理にも反映させる。
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	医療機関との連携のみならず、民生委員さんや近隣住民さんなどとも共同して支援を行う。	職種により医療機関との連携に振り幅が大きかった。会議録を回覧し利用者様も見られるよう事業所内（共有スペース）に設置している。	職種により医療機関との連携に振り幅が大きかった。運営推進会議についても職種により参加していないことが多く、会議録の回覧にとどまっていた。	
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目)	医療行為ができる介護職の養成に取り組み、たん吸引実施事業所を目指します。	たん吸引実地事業所・たん吸引等研修実地研修事業所としての届出等は完了する	社員が研修を終了できるように継続する。	

	目 32～41)		ことが出来たが、社員が研修を修了するところまでには至っていない。	
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	利用者様・ご家族様の意向をその都度確認するとともに、定期的なミーティングを活用し、モニタリングを積極的に行い、情報を共有し、多職種で協同し計画を作成する。	臨機応変に対応することが出来る看護小規模多機能であるから在宅での生活を継続することが出来ている方が多い。 多職種で協同し、モニタリングを行うことで迅速な対応が出来ている。ミーティング・カンファレンスの時間については足りていないと感じているも、情報ツールを駆使し情報の共有を図り補っている。		継続し行う必要がある。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		キャリアアップの制度化と、業務継続計画 (BCP) の完成を目指し安定した運営を目指す必要がある。	①わかばキャリアアッププランニングとして制度化することで中長期的な育成を目指す。 ②業務継続計画 (BCP) の完成を目指す。
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	看護と介護での情報共有を密にし、アセスメントやモニタリングを充実させ、リスク管理にも反映させる。	お客様に対しての担当制を活かし、担当社員が中心となり多職種での情報収集、対応策などを見出していくことを目指す。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	多職種間の連携は図れているが、介護職が担当者会議や運営推進会議に参加する機会が少なかったため、多職種連携として、ご家族様や地域との関りを強める必要がある。	①退院時のカンファレンス、担当者会議等において、介護支援専門員・看護職員にとどまらず該当するお客様の担当についても参加できるように目指す。 ②運営推進会議について、社員も順番に出席できるように目指す。

	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	たん吸引実地事業所・たん吸引等研修実地研修事業所としての届出等は完了することが出来たが、社員が研修を修了するところまでには至らず道半ばである。	す。 ①認知症カフェの開催を目指す。 ②認定特定行為業務従事者認定証の交付を受けた社員育成を目指す。 ③喀痰吸引等事業者の登録を目指す。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)		多職種で協同し、モニタリングを行うことで迅速な対応が出来ている。ミーティング・カンファレンスの時間については足りていないと感じているも、情報ツールを駆使し情報の共有を図り補っている。	その時々状況、意向に応じて臨機応変に目標の設定・サービスの組み換えを行うことで在宅生活の継続を目指す。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			理念を意識し、サービス提供に心がけてください。	✓ ①~⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①~⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 独自ではないが、全体としての理念が掲げられており、ご本人やご家族の意向のもと医療・看護・介護を受け安心して生活できるようサービスを提供できている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			<p>情報共有は大切であるため、改善が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○			情報共有は大切であるため、改善が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○			職員間で話し合う時間を確保できるようにしてほしい。また、自ら声を出せる雰囲気づくりに努めてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		うにしていってよいか検討する必要がある。					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>緊急性がある情報の共有については、ケース記録を速やかに回覧、口頭での申し送りを行う。ケース毎のファイル、申し送りノートの活用。</p> <p>個人の情報は分刻みで変更になることなどから家族のニーズに対応していく情報共有ツールを通じての情報を都度共有し顧客への支援とサービス向上につながっていると思う。</p>	<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保の		○			<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	ため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> サービス向上委員会にて、月1回の事故報告・ヒヤリハットの事例にて今後の対策等を検討し、職員へフィードバック。また、緊急時の対応や感染症の時期には対策等の見直しも行っている。				取り組みを継続してください。	対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護におい

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		きていていると思われる。ご家族が自宅に不在（県外に居る場合）はメールで情報を発信している。					ては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			信頼を得られるような関係性づくりに努めて下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成され		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	ている						する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			モデル的に実施し、実施するための方法や手順を確認して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○			サービス提供内容に変化があった場合、計画へ反応させることが必要ですので、検討して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 必要に応じて訪問回数を増やし対応したり、訪問内容を生活状況の変化に合わせて変更できていると思う。					な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○			<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 毎月評価をした訪問看護計画書を主治医へ、受診時等に主治医への情報提供し相談している。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○			<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 透析や経管栄養摂取の時間から、入浴や排せつ介助などのスムーズなサービス提供が行われており、看護職との連携及び専門性を活かした配薬分担が出来ている。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○				✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 透析や経管栄養摂取の時間から、入浴や排せつ介助などのスムーズなサービス提供が行われており、看護職との連携及び専門性を活かした配薬分担が出来ている。					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○				✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> お客様の日々状態を確認しながら気になったことを看護に報告し助言をいただいている。看護からも質問や情報の提供や交換を行っている。薬の副作用による症状の予後予測やリハビリや声掛けなど専門性を活かした情報提供や提案を受け取れるようにしている。					
④利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない			
	説明し、利用者等の理解を得ている	[具体的な状況・取組内容] サービス提供時は、行えるサービス内容についてその都度説明し理解して頂くように努めている。				言葉かけについては、理解してもらえるよう工夫をして対応して下さい。		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明								
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			[具体的な状況・取組内容] 薬情によっては一般状態が不良となり脱水の状況も考えられることなどを説明し、その後の受診する際、主治医に報告をするように説明し理解を得ることができた。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します	
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			[具体的な状況・取組内容] 退院後、施設の泊まり後に初めて自宅へ戻られるとき家族の方から問い合わせがあった時など、訪問しアドバイスしている。情報共有のためのノート・記録を活用。	報共有のためのノート・記録を活用しているとのことであり、継続して取り組んで下さい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有								
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族		○				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	等)の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	[具体的な状況・取組内容] 退院後急遽自宅での看取りを希望された方がいらっしゃったが、意向に沿うようなサービス提供へ変更し行った。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる		○				✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ご本人やご家族と相談したうえで共有したサービスを行っている。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している				○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		[具体的な状況・取組内容] 経緯に応じた予測されることについての説明を行っている。ご家族の意向などを記録として残している 現在該当者なし。					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援して		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファ
		[具体的な状況・取組内容] 看護職は、退院前の担当者会議へ参加し、					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	いる	情報共有、退院後の生活に関し不安なことに対する相談が来ているが、介護職は退院前のカンファレンスへの参加はしたことがない者が多く、書類などをみて情報を共有している。				サービス提供は、チームケアが大切です。情報共有に努めて下さい。	「レンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考え		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	られる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 運営推進会議にて意見交換や情報提供など実施しているが、参加したことのない職員が多い。					一マルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○			<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 会議録を回覧し利用者様も見られるよう事業所内（共有スペース）に設置している。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○			<u>[具体的な状況・取組内容]</u> コロナ禍ということもあり、積極的な啓発活動はできていない。	啓発活動をどのように行っていくのかという方向性を再度確認し、実施できるようにして下さい。 ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
							とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している						<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			<p>体制の継続に向けた取り組みを維持していただきたい。</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 日中は看護師が確保できているので定期的に吸引を行うことができ利用を受け入れている。また、介護職員もたん吸引の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
		研修等を行い、受け入れ体制の強化を図っている。					できている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲				○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 管理者以外の職員の理解が不足していると感じる。				地域包括ケアシステムは、少子高齢化に対応するために国が進める政策の柱であるため、医療・保健・福祉の従事者は、理解することが必須であり、研修等を活用し理解に努めていただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○			現行の取り組みを継続して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている				○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		善策の提案は出来ていない					<p>て得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○				<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u> コロナ禍によりご家族や近隣住民の方々と関わっていないが、落ち着いてきたらそのような機会を設けて取り組んでいきたいと思う。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 評価・見直しは実施できていると思われる。達成・満足度（ご本人・ご家族）は不明である。	達成・満足度を意向と同じように聞き取りを行って下さい。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 病院からの退院後、再入院される頻度が少なく、在宅生活を継続するための支援（訪問・相談・療養上の指導）を行っている。24時間の緊急対応可能。	現行の取り組みを継続して下さい。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 該当者がいない。		✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
				✓ 在宅での看取りの希望者がいない 場合は、「5. 看取りの希望者はい ない」